

福島県立湯本高等学校 英 語 科 閉 科 式

日 時 平成31年2月28日（木） 9:20～9:50

場 所 福島県立湯本高等学校第一体育館

式次第 1 開式のことば （3年E組 鈴木 梓）

2 校長式辞

3 卒業生代表挨拶（本校教諭 森藤 文葉）

4 在校生代表挨拶（3年E組 吉田 僚我）

5 ビデオ上映

（作成 3年E組 鈴木梨々花 鍋田枝里佳）

6 閉式のことば （3年E組 岩下 未夢）



(校長式辞)

Ceremonial Address

Today I will make a ceremonial address in English, related with the closing of “Eigoka.” I’m going to speak English as slowly as possible, so please follow me.

As you know, “Eigoka” was established in 1989, “Heisei Gannen.” It was just 30 years ago. It was the time when internationalization and computerization were demanded in Japan.

Then, Yumoto Senior High School started “Eigoka.” The purpose of “Eigoka” is to train the students to play an active role in various fields of an international society. To achieve this purpose, some interesting activities, such as short-term study abroad and one-day intensive English seminar, have been done so far, not to mention attractive English lessons.

Many promising students, such as Morito Fumiyo Sensei and Watanabe Ryo Sensei teaching at alma mater, Yumoto Senior High School, have graduated from “Eigoka.” The number of alumni is 1,763, including 40 students sitting here in this gymnasium now.

Tomorrow will be the last day of “Eigoka.” Let’s say “good-bye” to “Eigoka” and say “thanks” to “Eigoka” for what they have done for 30 years.

“Eigoka” is the treasure of Yumoto Senior High School.

February 28th, 2019

Principal Nihei Kouichi



(卒業生代表挨拶)

湯本高校英語科閉科式にあたり、卒業生代表として一言ご挨拶申し上げます。

私が入学した平成3年度の英語科はA・Bの2クラスで1クラス約46名、私はB組、女子クラスで3年間過ごしました。1日6時間の授業のうち、毎日、2時間から3時間は英語の科目があり、好きな英語を毎日勉強でき、充実した日々を過ごしていましたと言いたところですが、高校生だった私は早く卒業したくて仕方ありませんでした。賑やかだった女子クラスが嫌だったのか、自分たちの教室だけが理科棟だったのが嫌だったのか、振り返ってもなぜそのように思っていたのか明確な理由は浮かんできませんが、当時、この気持ちが強かったことだけ鮮明に覚えています。しかし、今こうして英語教師としての自分があるのは、英語科があったからです。講師を含めての教師生活21年のうち、11年湯本高校で過ごしました。その間も多くの英語科の生徒たちと出会ってきました。特に平成28年度からは英語科の担任を経験し、卒業生を送り出した日は胸がいっぱいになりました。こんな経験ができたのも自分の原点が英語科にあるからだと思っています。平成の始まりと同時に湯本高校に英語科が設立されなければ、今の私はなかったと思います。そう考えると本日の閉科式はさみしい気持ちにもなります。

30年続いた英語科で私が在学していた頃から現在の英語科のみなさんに受け継がれていると感じるものがあります。それは「英語科としての誇り」と「英語科としての団結力」です。今後は「湯本高校としての誇り」「湯本高校としての団結力」として在校生や未来の生徒の皆さんに引き継がれていくことを望んでいます。

英語科という形はなくても「歴史」そして「思い出」は残ります。私はその歴史や思い出を大切にしていきたいと思っています。今後も英語科卒業生としての誇りを忘れず、これから出会う多くの生徒に英語の楽しさを教えていきたいと考えています。最後に湯本高校のますますの発展を祈念して、卒業生代表挨拶といたします。

平成31年2月28日

卒業生代表 英語科3期生 森藤 文葉



(在校生代表挨拶)

本日は、このように盛大な英語科閉科式を開いていただき、在校生を代表して感謝申し上げます。

早いもので、私たちが湯本高校に入学して3年が経とうとしています。私たちが入学した時には、各学年1クラスずつ英語科がありました。英語科の先輩方は、英語の学習にも学校行事にもいつも積極的で、とても頼りになる存在でした。しかし、その年の10月に英語科の募集停止が決められました。翌年からは英語科に後輩が入学することなくなり、自分たちが英語科の締めくくりをする立場となりました。そしてついに本日、英語科の閉科式を迎えることとなり、私は万感の思いで胸が一杯です。

私は、得意な英語の力をさらに伸ばしたいと思い、英語科に入学しました。英語科では、ほぼ毎日、ALTとの授業があり、リーディングやリスニングに加えて、英語によるスピーチやプレゼンテーションなども行いました。また、1年次にはJICA二本松での研修、2年次にはSkyperでのアメリカの大学生との交流などが行われ、英語力を高め、異文化への理解を深める機会がたくさんありました。さらに、検定試験に向けた授業も充実しており、私は目標としていた英語検定2級を高校2年次に取得することができました。先生方の様々な工夫のおかげで、3年間の学習はとても充実したものになり、私たちは入学時よりも英語の能力を大幅に向上させることができました。

英語科には活気のある生徒が多く、先生方に御迷惑をおかけしたことも多々ありました。しかし学校行事となると、クラス全員が全力で取り組みました。中でも昨年9月に行われた「さはこ祭」では、制作過程で互いの意見を衝突させながらも、「さはこ祭グランプリ」など5冠を獲得し、クラスの団結は一段と強くなりました。このように学校行事でどのクラスより盛り上がるのも、英語科ならではのことでした。

中学生の時、私は、自己中心的な言動をすることが多く、高校入学後も、担任をはじめ様々な先生方から何度も注意を受けていました。それにも関わらず、先生方は温かく、時に厳しく指導してくださり、E組のみんなは私を支え続けてくれました。3年生になると、私はホームルーム長に選ばれ、クラス全体のために行動しよう、親や先生方に迷惑をかけないようにしようという考え方ができるようになり、学習に対する取り組み方も変わってきました。高校3年生の夏、受験する大学を決めるため、自分の高校生活を振り返った時に、私には将来の夢ができました。それは、高校の英語教員になることです。私も、湯本高校の先生方のように、悩んでいる生徒がいれば支えてあげることのできる教員になり、E組のように、元気で思いやりのあるクラスを作りたいと思います。

英語科がなくなるということは、英語が必要でなくなったということではなく、誰もが英語を使いこなせるようにならなければならない時代になったということです。30年に渡って培われてきた英語科の伝統が今後も湯本高校に受け継がれ、1・2年生の皆さんも、そして、その後に続く皆さんも、英語をはじめあらゆる教科に真剣に取り組み、自分の目標を達成することを心から望みます。

最後になりますが、長年に渡り英語科を御支援くださいました皆様への感謝を申し上げますとともに、湯本高校のますますの発展を祈念して、在校生代表あいさつといたします。

平成31年2月28日

在校生代表 3年E組 吉田 僚我

